

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし

活躍した年:

1894~1965年



かつやく ぶんや

活躍した分野:

かんしじん
漢詩人



ゆかりのある場所:

あとうはくみねんこうえん
・阿藤伯海記念公園



あとう はくみ
阿藤 伯海

新見 高梁 高梁 高梁 高梁 高梁 高梁 高梁 高梁 高梁 高梁
市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市
浅口市 里庄町 笠岡市



あとう はくみ めいじ ねん いま あさくちかもがたちょう う
阿藤伯海は、明治27（1894）年、今の浅口市鴨方町に生まれました。

たいしょう ねん とうきょうていこくだいがくてつがくか そつぎょう よくねん きょうとていこくだいがくたい
大正13（1924）年に東京帝国大学哲学科を卒業しましたが、翌年、京都帝国大学大
がくいん はい かの なおき ちゅうこくてつがく まな
学院に入り、狩野直喜のもとで中国哲学を学びました。

しょうわ ねんぜんご めいじだいがく ほうせいだいがく ちゅうこくぶんがく おし せんじちゅう だい
昭和10（1935）年前後、明治大学と法政大学で中国文学を教え、また戦時中には第
いちこうとうがっこう かんぶんがく おし しょうわ ねん さい せんせい かま
一高等学校で漢文学を教えました。昭和19（1944）年、51才で先生をやめて、鎌
くら ち そせんだいだい かもがたちょうろくじょういん かえ とし よ し りきょう きでん
倉の地から祖先代々の鴨方町六条院に帰りました。その時のことを読んだ詩に『離京』『帰田』
があります。

ききょう ねんかん きゅうたくしす く あいだ かんし さくせい しょうじん
帰京してから21年間、旧宅で静かに暮らし、その間はもっぱら漢詩の作成に精進しました。

せいぜんさいご か きびこうかんしさく ゆうめい
とくに生前最後に書いた『吉備公館址作』は有名です。

おだくんやかげちょうみつなり きびだいにんくうけいだい かこうがんせい きびこうかんしひ
小田郡矢掛町三成の吉備大臣宮境内に、花崗岩製の「吉備公館址碑」がそびえたっていま
すが、その『吉備公館址作』碑文の清書を終えたのは、亡くなる半日前であったそうです。

ししゅう たいかんしろう な あと おし こ たかぎものすけ もとちゅうおうだいがくそうちょう て
また、詩集『大簡詩草』は、亡くなった後に教え子の高木友之助（元中央大学総長）の手
かんこう
によって刊行されました。

こう づらぬ しょうわ いたい かんしじん あとうはくみ けんしょう あとうはくみねんこうえん う
孤高を買った昭和の偉大な漢詩人である阿藤伯海を顕彰する「阿藤伯海記念公園」が、生
ち あさくちかもがたちょうろくじょういんひがし
まれた地である浅口市鴨方町六条院東にあります。